

<全体分析>

試験時間 2科目で150分
現代システム科学域、生活科学部は1科目で90分

解答形式

選択, 記述, 計算, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年, 出題数は各大問に2題の内容で, 実質6題の出題数であったが, 今年度は実質5題の出題数であった。

その他トピックス

実験問題が今年も出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 計算	脂肪族化合物 芳香族化合物	化学	脂肪族炭化水素 C_8H_{12} の誘導体, 芳香族ジエステルの構造決定を中心とする内容であり, 結晶に関する論述も含まれている。	標準
第2問	記述 選択 計算	化学結合 量的関係 実験	化学	問1 電子式, 分子の形と極性の有無, シュウ酸カルシウムの熱分解の実験の内容である。	標準
	記述 計算	電離平衡 溶解度積	化学	問2 加水分解定数, 硫化物の溶解度積を中心とした内容である。	やや難
第3問	記述 計算	原子の構造 同位体 混合気体	化学	問1 同位体と原子量, 混合気体の計算問題の内容である。	標準
	記述 計算 選択	溶解 イオン結晶	化学	問2 イオン結晶と分子結晶の溶解, イオン結晶の融点や限界半径比の内容である。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 基礎的な事項を十分整理しておくこと。
3. 論述問題が多いので, 平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験装置・操作についても, 注意しておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。